

り、警察による取締りや啓発活動など積極的に展開していただいているところである。

町として、交通事故に起因する死者を出さないため、引き続き警察や関係機関との連携を密に、実効性の上がる運動を展開して行く所存であるので、ご理解いただきたい。

〈環境対策について〉

鬼北環境センター運営、点検状況について。

町長 鬼北環境センターの運営状況、定期点検状況等については毎年、畔屋区長・組長・住民7名で組織する「鬼北環境センター公害監視委員会」を開催し、ごみの搬入状況・焼却施設稼動状況・施設に係る各種性能状況及びダイオキシン類濃度の測定分析の報告を行い、協議を行っているところである。

今年度は、平成17年1月28日に開催したが、委員から不満の意見は出ていなかった。

施設環境調査データの開示、提供を求める。

町長 当該施設は宇和島地区広域事務組合の施設となつているので、当組合に申請し、許可を受ければ提供を受けることができる。なお、先にも答弁したとおり各データについては、毎年鬼北環境センター公害監視委員会に報告している。

清水最終処分場について。①周囲の金網が倒壊寸前となつている。周囲からの投棄によるものではないか。②各種の廃棄物が場内に放置してある。③腐食、有害物の流

出の恐れは無いのか。④場内の通路は不十分で危険である。⑤水質環境調査の開示、提供を求め。

町長 金網については、ご指摘のとおり一部傾斜している部分はあるが、倒壊の心配はないものと理解している。金網の破損部分は修繕を計画中であり、今後一層維持管理には注意を払いたい。車からの金網越しの投棄については、皆無とは言えないが、空き缶、空き瓶程度のもものと理解している。場内の物については随時埋め立てており放置しているものはないと理解している。

当処分場は「安定型処分場」であり、腐食性の高いもの、有害物は持ち込むことができない。現在までの水質検査等においても、異常は認められていない。

処分場内の通路については、4トン車でも十分通行可能な幅員であるが、勾配については埋め立ての状況により変化するので、現在の高低差では勾配をゆるくするスペースは無い。搬入業者、一般申請者にはそのつど十分注意をするよう指導している。

水質環境調査データの取り扱いについては、申請があれば対応したい。

〈固定資産税問題および尿処理問題について〉

し尿処理問題

固定資産税の過徴収分の返還および不足分の徴収状況は。

町長 現年度分は1月末還付で1,597件の1千78万4千8百円100%全額還付をしている。過

年度分は、3月末の還付としている。追徴分については、現年度分は、12月4期分に上乘せし、納税をお願いしたが、806件中796件の納税となつており金額は519万9千2百円の納税で、99.62%の収納率となつている。

過年度分は、2月末現在で4,366件の内、2,656件、収納率が60.84%となつており、金額では、1千715万3千4百円で収納率55.02%である。滞納金については、99.5%を目標とし早期納税をしていたくよう督促、徴収等最善の努力をする方針である。

し尿処理の委託は単独業者でなければならぬ法的根拠はあるのか。

町長 し尿の収集・運搬業務に係る委託は、1社でなければならぬ法的根拠は無いが、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第4条第1項に「受託者が受託業務を遂行するに足りる施設、人員及び財政的基礎を有し、かつ、受託しようとする業務の実施に關し、相当の経験を有する者であること」と規定されており、なおかつ現在、業務は円滑に進められており、収集・運搬が困難な状況にはなく、今後においても、農業集落排水事業、浄化槽設置事業等の推進、普及により、収集件数および汲み取り量は、減少が見込まれるので複数業者に委託する必要はないものと考えている。

〈地域振興について〉

農林業の振興をどのように推進するのか。

町長 鬼北町においては、現在道の駅「森の三角ぼうし・日吉産地」等の施設を利用して「産地消」都市と農村の交流を実践し農家所得の向上を図つていくところである。また、学校給食において、地元で生産される農産物を小中学生に提供しながら農家との交流を深めるなど「食農教育」に取り組みとともに「緑の少年団」活動等を行うじて、森との関わり的重要性についても積極的に取り組んでいるところでもある。

現在、鬼北町では、畜産農家・野菜農家等全国的にも優秀な経営で意欲をもって生産活動をされている方々が多数おられるが、そういう認定中核農業者を中心に、兼業農家・高齢農家を有機的に組み合わせるとともに、森林整備地域活動支援推進事業等の有効活用を図り農林業振興を図りたいと考えている。更に、日吉産地付近で計画している市民農園を利用したグリーンツーリズム、当町が事務局をしている南予流域林業を核に地元産木材を利用した建築物の推進も図つていきたい。

現在当町の特産品として開発している「鬼北熟成きじ」については、販路開発により流通形態の革命を図り他の農畜産物の販売にも大きく貢献すべく町づくりの起爆剤と

兵頭敏和 議員